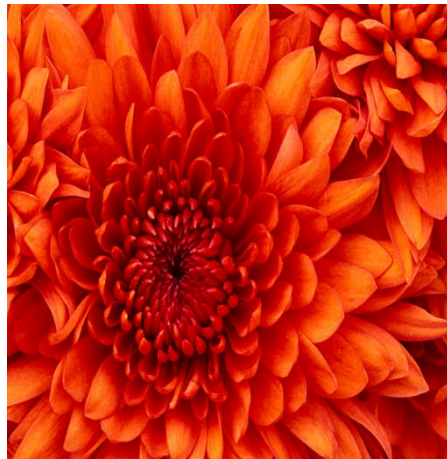


教職実践演習

子どもの理解と教育相談



平成23年11月25日(木)
秋田県総合教育センター
支援班 鈴木 幸子

今日話すこと

◎ 子どもの理解

1 教育センターにおける教育相談

2 教育相談で心がけること

- ・ 話の聴き方
- ・ 保護者への対応
- ・ 解決志向ブリーフセラピー

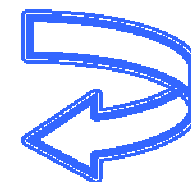
3 教育相談の実際

- ・ 不登校の児童生徒への対応

教育センターにおける教育相談

本人・保護者・学校の支援として

- ① 電話相談(332回)
- ② 来所相談(333回)



児童生徒担当 不登校→学級・人間関係

特別支援教育担当 不登校→個人の特徴

特別支援教育担当と連携

センターの相談内容

特別支援教育

- ・自閉的状态
- ・LD・ADHD等発達障害
- ・知能検査
- ・発達・その他

教育相談

- ・不登校
- ・不安
- ・いじめ
- ・生活問題

生徒指導

教育相談で心がけること
(留意すること)

相談に当たって留意すること

「相談」と「指導」のちがい

相談

話を聴く

内面を理解する

指導

話をする

行為の改善を図る

どちらも必要なときは

「内面を受け入れて」から「改善の指導」を

教師は話し上手の聞き下手

教師の面接の特徴

- ①「根掘り葉掘り聞く」
- ②「忙しい、急ぎすぎる」
- ③「すぐ自分の意見を押し付ける」
- ④「先生はわかりきっていることを言う」
- ⑤「秘密を本当に守ってもらえるだろうか」

教えようとするな 分かってとせよ

教育相談とは

児童生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図るものであり、決して特定の教員だけが行う性質のものではなく、相談室だけで行われるものでもありません。

「生徒指導提要」

平成22年3月 文部科学省

問題モード

なぜこうなってしまったのでしょうか

誰がいけなかったのでしょうか

どこに問題があったのでしょうか

教育相談の土台 カウンセリング・マインド

「受容的な態度」

相手の示す考えや感情に対して、
評価したり解釈したりしないこと

「共感的な理解」

「そうせざるを得ない何かがある
のだな」と、**感じる心**をもつこと

学校教育相談の種類と対象

全ての児童生徒対象
子どもの心や人間関係を育てる

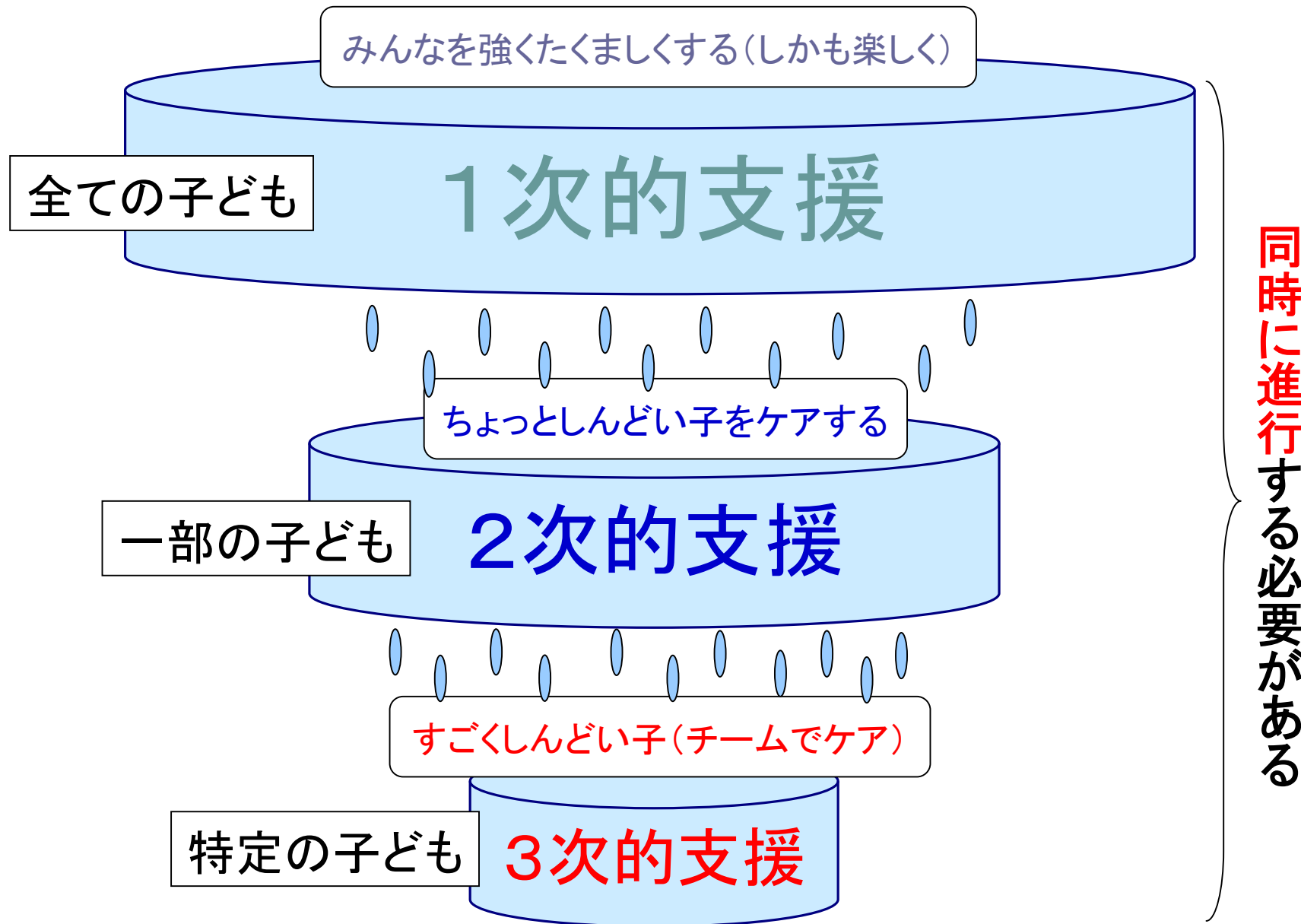
開発的教育相談

カウンセリング的
教育相談

不登校やいじめ, 非行などの
問題行動のある児童生徒対象

援助的
教育相談

不安や悩みを抱える
児童生徒対象



合わせる

1 エネルギーを合わせます

- ・ 声の大きさ, 話すスピード, 呼吸
- ・ 相手との距離〔パーソナルスペース〕

2 姿勢を合わせます

- ・ 鏡のように合わせる

3 うなづく、相づちを打つ

- ・ 安心感を与える

4 相手のことを認めます

- ・ 受容する

傾 聴

相手の使っている言葉を
相手の使っている意味において
理解しようと努める

- 1 聴きながら「なぜ？」を考える
- 2 「なぜ？」から仮説を立てていく

もっと話したくなる聴き方

相手に体を向ける

相手を見る

最後まで聴く

相づちをうつ

質問をする

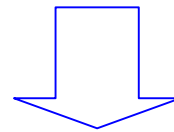
相手の言葉を繰り返す

言語的と非言語的コミュニケーション

出典:「平成23年度教育相談指導者養成研修」(栗原慎二)講師資料

- 言語を媒介として伝わるメッセージは、約 7% %

7%が非言語による伝達



非言語を**観察する**重要性
非言語を**意識して話す**重要性

- 1 相手との位置
 - 2 姿勢
 - 3 表現・視線
 - 4 服装
 - 5 動作
 - 6 声の調査やスピード
- など

ノンバーバルを大切に

メレイビアンレイビアンの法則

カリフォルニア大学ロサンゼルス校のアルバート・メレイビアン博士

言語

聴覚

視覚

7%

38%

55%

教師の6つのノンバーバルスキル

①視線(アイコンタクト)

目と目を合わせて話すことで力強さが伝わる。強過ぎる視線を嫌う人もいるので、アイコンタクトを基本にし「一緒に同じものを見る」という形をとる工夫も必要。

②表情

言葉にふさわしい表情をする。言葉と表情が裏腹だと、相手に不信感を抱かせたり、必要以上に気を遣わせたりする。

③ジェスチャー 体の動きのこと

体の動きは相手に見えやすいので、発している以上のものを伝えてしまう。

腕組み...心が閉ざされている

とっつきにくさや威圧感

貧乏ゆすり...もう話を聞きたくない

イライラする

④声の大きさと質

声の大きさ、高さ、明るさ、抑揚なども重要な要素。場面や相手、目的、話の内容を考えて声の大きさや質を調整して自分の思いを正確に伝える。

⑤言葉遣い

分かりやすい言葉を使うことが大切。品のない言葉やセクハラまがいの発言は厳に慎む。

⑥服装・身だしなみ

服装・身だしなみは、目に見えて分かりやすい。状況に応じた配慮が大切。

「教師の個性」で済まされない。

教育に携わる**教育公務員としての自覚**が必要！

保護者との人間関係づくり

1 教師の思い込み

「先生は、子どもの指導のための専門的知識・経験，それに基づく権限を持っていて，問題解決のために親を何とかするのは当然のことだし，親がこちらの方針に協力するのは当たり前だ」という考え方や態度が根底にないか？」

2 親に協力を求める場合

- (1) 親の気持ちを考える(特に呼び出し)
- (2) 親の土俵にのぼって, 親の問題意識から一緒に考える姿勢で気持ちを伝える
- (3) 「**教師の6つのナンバーバルスキル**」を大切にした対応をする

3 専門機関へ紹介する場合の関わり

学校との関係が切れたと思わないように
細心の注意を！

関係機関との連絡は学校がとる

保護者と一緒に関係機関を訪れる

事後に、定期的に連絡をとる etc.

これまで築いた良好な関係も、不用意なたった一言で台無しになることもある。

「お宅のお子さん，変ですよ。調べてもらった方がいいです。」

先生に見限られた、自分たちの事を詳しく調べられるかも等の不安や心配，怒り。

<対応例>

「担任としていろいろ工夫をしておりますが〇〇さんのためにもっとよい方法がとれるように、一緒に専門機関と相談してみませんか？」

留意すること

くり返し・明確化

プラス面を

「解決策に気付くことにつながる」

感情の伝え返し

「つらいんですね」

「寂しかったんですね」

「気持ちが分かってもらえたという安心感」

対決

正論をぶつけない

正論だけでは
元気になれない

「分かっているけど、言われたくない」

個人批判

心理的事実への受容

「そうですね」と同調しない

「そうですか」

「ご心配だったんですね」



教育相談の実際

不登校児童生徒数

- 平成22年度

「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果

全国 小学校 21,675人 中学校 93,296

秋田県 小学校 140人 中学校 616人

☆小・中 1,000人当たりの不登校児童生徒数 9.2人

復帰数・率

	平成22年度	秋田	全国
小学校	34人	<u>24.3%</u>	32.5%
中学校	209人	(34.3%)	30.8%
	平均	<u>32.4%</u>	<u>31.1%</u>

学年別内訳の推移(秋田県)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
H19年度	4	8	12	16	34	60	162	207	277
H20年度	5	5	12	25	23	41	154	250	243
H21年度	5	8	5	23	32	38	117	233	256
H22年度	7	5	14	20	46	48	134	212	264

○小6から中1の「中1ギャップ」だけでなく中2, 中3へ進級する時也要注意。
○中1時の小学校のクラス分けの配慮事項が中2, 中3で無くなったことで不登校になる生徒も・・・

中1ギャップ

中1⇒中2 } 増加
中2⇒中3 } している



現代の子どもたちの実態

自分を透明にする子どもたち

同調(ただ合わせる) $A + A' + A'' \dots$ 3, 4人の小グループ

協調(いろいろな個性を受け入れて成長)

$A + B + C \dots$ 取り入れて大きくなる

心が折れやすい子どもたち

ベテラン教師も学級づくりに苦勞。

子どもの関係がよそよそしく、妙に遠慮

子ども同士の積極的なつながりをつくることが苦手

集団はまとまるどころか限りなく解体の方向に向かう

不登校への対応のヒント

なぜ登校できているか？

活 動

学業

部活

対人関係

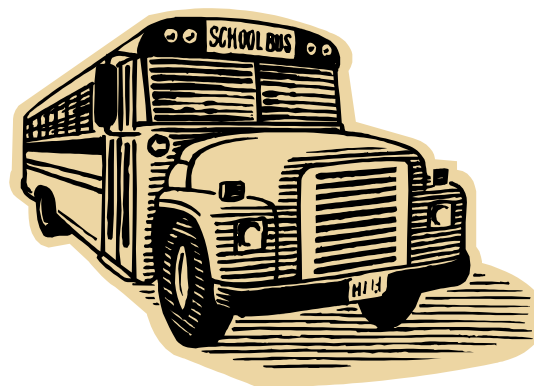
友人

教師

価値観

将来

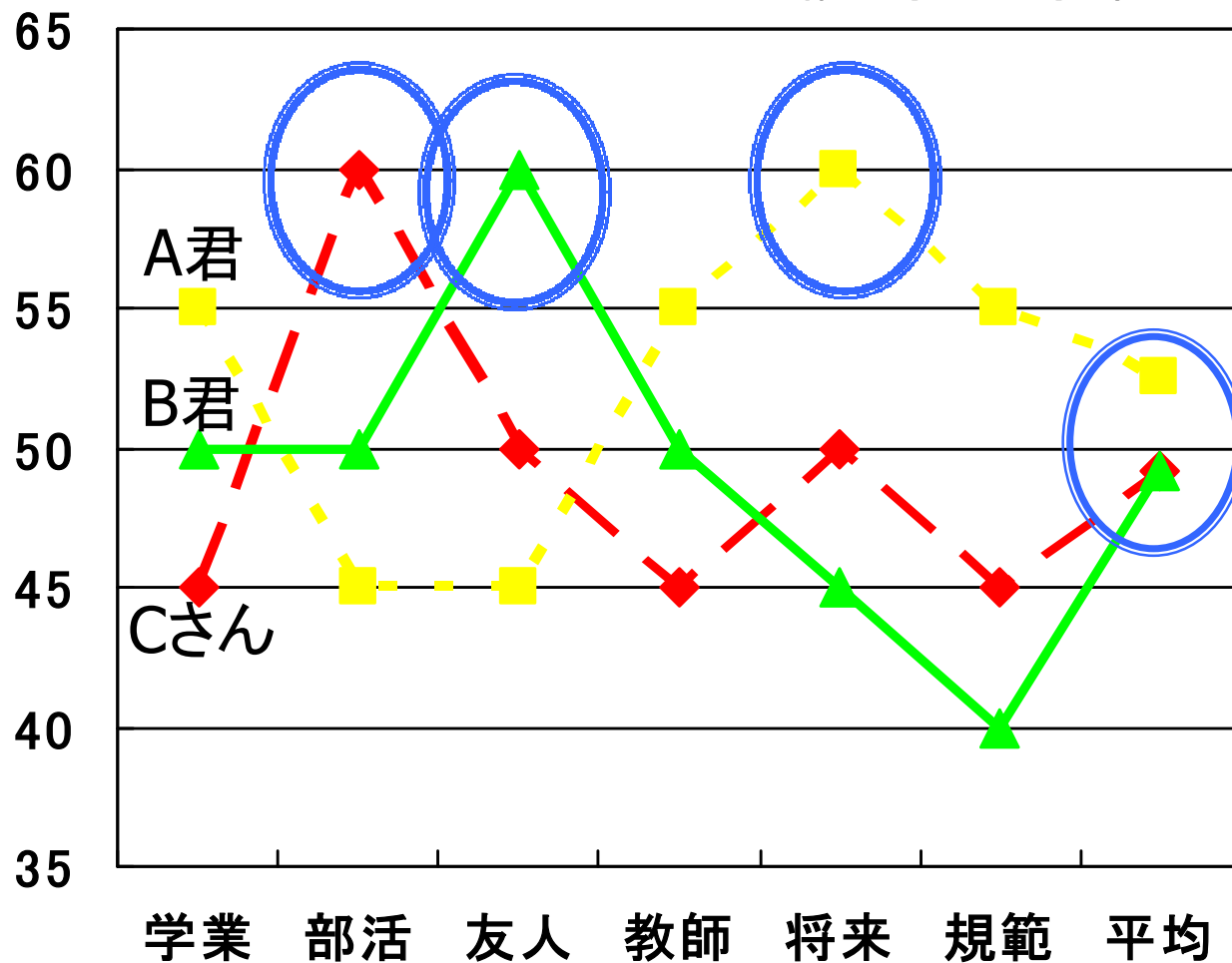
規範



「中学版むすびスケール」

のアイデアに学ぶ

吉備大学心理学部 津川秀夫 教授



適切な行動に目を向けると・・・

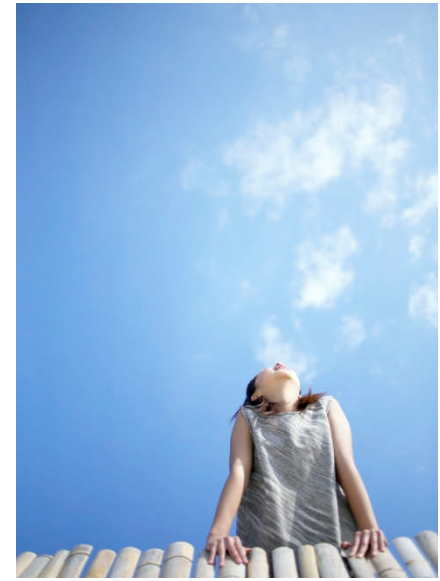


0 20

適切な行動が増える
＝不適切な行動が減る

教育相談をする際には...

- どうなりたいのか
- 何がどうなるといいのか
- 何ならできそうか



つまり

本人にとってのゴールを設定する

悲しみ、辛さ、怒りなどの負の感情

- 言語化できて気持ちがおさまった状態

話を聴いてもらえた
気持ちを受けとめてくれた

- △ 言語化できずに内に抱えると……

ムカつく

- × 言語化できずに行動化すると……

キレる

教育相談の効用

カウンセリングの技法を生かす

くり返し・明確化

…ということなんだね

満足感

支持

なるほど そうだね

自己肯定感

質問

「はい」「いいえ」で答えてくれる？

親近感

指示

今度は「〇〇」してごらん

信頼感

自己開示

実はね、先生はね…

対決

でもね、それはね…

真剣さへの信頼

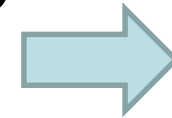
まとめ

助言, アドバイスより「傾聴」を

原因探しより, リソース探し

解決のゴールは本人に聴く

子どもから自己解決の力を引き出す



子ども理解